第二十七回（令和三年度）

# 令和独楽吟

## ー橘曙覧顕彰短歌コンクールー

主　催　福井市・公益財団法人歴史のみえるまちづくり協会
共　催　福井新聞社・ＮＨＫ福井放送局
後　援　福井中央郵便局・福井本丸ライオンズクラブ・
　　福井県・福井県教育委員会・福井市教育委員会
協　賛　熊本市

# 第二十七回（令和三年度）令和独楽吟 - 橘曙覧顕彰短歌コンクール - について

（募集期間　令和三年九月一日～十一月三十日）

福井に生きた幕末の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）。曙覧が詠んだ一連の作品として『独楽吟（どくらくぎん）』があります。

『独楽吟』は、「たのしみは」で始まり「…とき」で終わる形で詠まれた五二首の連作の短歌で、貧しいながらも心豊かに暮らしていた、曙覧の様々な楽しみが詠み込まれています。

平成六年、当時の天皇皇后両陛下がご訪米された折、クリントン大統領が歓迎スピーチにおいて、「たのしみは朝おきいで て昨日まで無かりし花の咲ける見る時」の一首を引用されたことで、曙覧と代表作の『独楽吟』に注目が集まりました。

この翌年より「平成独楽吟」と称し、曙覧の『独楽吟』の世界に学び、何気ない日常の中で感じた身近な楽しみ、ささやかな楽しみを詠んだ短歌の募集を始めました。また、第六回からは「万葉集や実朝以来の歌人」と正岡子規に絶賛され、自由で革新的な和歌を詠んだ曙覧にちなみ、「自由短歌部門」の募集もあわせて行ってきました。

今回、独楽吟部門に七四一二首、自由短歌部門に一五五七首、一三〇校から学校単位でのご応募をいただきました。

ここに入賞・秀作に選ばれた全作品を掲載いたします。全国から寄せられた、たのしみの歌、こころの歌をご覧ください。

**審査員　独楽吟部門**

審査員長
市村　善郎　歌人

橋谷　桂子　童話作家

佐孝　石画　俳人

足立　尚計　歌人

**審査員　自由短歌部門**

審査員長
福島　泰樹　歌人

加賀　要子　歌人

喜多　昭夫　歌人

足立　尚計　歌人

独楽吟部門

橘曙覧賞

楽しみは青から赤にかわってくおばあちゃんちのかきを見るとき

石川県　吉本渚星

## 独楽吟部門　入賞作品

福井市長賞

たのしみは孫に教えたおりがみがやがて千羽の鶴になるとき

福井県　中川朝江

福井市教育委員会賞

たのしみは校長室の壁の上ずっとカメムシ居るを見るとき

岡山県　永瀬理恵

福井新聞社賞

たのしみはたおれぬようにしんちょうにまっすぐえんぴつならべてるとき

富山県　新田明日希

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみは灯りを消して兄弟でほんのりかがやくほたる見る時

福井県　山口莉絢

福井中央郵便局長賞

たのしみはたくさんきょうりゅうえにかいてばあちゃんちにもっていくとき

福井県　仲谷光志朗

熊本市賞

たのしみは兄とそだてたひまわりがぐんぐん伸びて背をぬかすとき　岐阜県　松村結愛

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは昔話を聞く子らの鼻がぷくりとふくらんだとき　愛知県　恒川暁子

学校賞

福井県　敦賀市立沓見小学校

石川県　白山市立北陽小学校

## 独楽吟部門　秀作作品

たのしみはあわぶくぶくでさっぱりしキレイなわたしおゆつかるとき　福井県　村橋愛羅

たのしみはずいぶん生きたつもりでも見知らぬ花にまた出会うとき　愛知県　夏目友子

たのしみはかき氷食べ口中で夏だけの雪舞っているとき　佐賀県　田中瑠夏

たのしみはふるさとからの豆りんご土のにほいの箱あける時　愛知県　山岸ヒサ

たのしみは映画で泣いて横みたら母も静かに泣いているとき　福井県　山本涼華

たのしみはいえでこっそりユーチューブママにないしょおしえないとき　福井県　中江柊人

たのしみはもうすぐ家に来てくれる小さな命待っているとき　熊本県　今坂汐那

たのしみは母の声するおやつだよ階段ダダダかけおりるとき　京都府　辻村桃子

たのしみは夜に帰ってきた時にメダカがたまごうんでいた時　福井県　高村心春

たのしみは冷たい指先温めて楽譜見ながら曲ひけたとき　長野県　小林優名

楽しみはきれいな赤のひがんばな風がゆらゆらゆれていく時　佐賀県　久原あい

たのしみは酔った父と冷静な兄の会話を聞いているとき　福井県　田原桃葉

たのしみはまず一株の試し掘り甘藷の入りを確かめる時　京都府　水野美代子

たのしみは亡母の句集を取りだして想い出たどり読みかえすとき　福井県　河村和江

たのしみは何もしないで縁側で冬のおひさま抱え込むとき　埼玉県　鹿山恵子

たのしみは試合に負けたその夜も素振り続ける吾子といるとき　福井県　和田慎子

たのしみは言葉を持たぬ嬰児が舌にて満腹いふを受くとき　福井県　髙嶋和子

たのしみは季節毎に咲く花とあなたの写真が増えていくとき　愛知県　榊原桜妃

たのしみは仕事道具を端によせ弁当箱を引き上げるとき　東京都　小澤拓夢

たのしみは帰りの会のいい話みんなで大きな拍手するとき　福井県　アブダルサミラ

自由短歌部門

橘曙覧賞

「またあした」とびらが開き赤色の夕陽に溶けて消えゆく背中

山形県　酒井晴多

## 自由短歌部門　入賞作品

福井市長賞

鍬を振り荒れし吾が掌を包みつつ「緊い手だなー」と孫は呟く　群馬県　川野忠夫

福井市教育委員会賞

両の手に抗がん剤の一月分持つも重たしバスを待ちおり　兵庫県　加島清子

福井新聞社賞

農継ぐと言った孫から聞かされる土の匂いが好きなんだよと　神奈川県　北村純一

日本放送協会福井放送局長賞

蚊帳のうち母の嗚咽のやまざりき叔父の戦死の報せありし夜　福井県　佐々木邦子

福井中央郵便局長賞

かじかんだ両手で雪をかき分けて万両の実の輝きにあう　福井県　藤田久子

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

金星は夜勤の我ら見守りて空淡くなり静かに宙へ　福井県　山下菜香

## 自由短歌部門　秀作作品

うつすらと小口の焼くる文庫本スカーレット・オハラの叫ぶ声する　熊本県　池崎充徳

吾の皺の手を見るほどに母の手なり優しく撫でてあげれば良かった　福井県　新道麗子

星の無い家路を急ぐ助手席にまだあたたかいピザまん二つ　富山県　石倉さやか

暗い部屋わずかな明かり机の前未来のために文字書きなぐり　岐阜県　中嶋響

認知症進みし母の独り言幼き頃の吾を案ずる　神奈川県　川口一寿

大根の収穫に追はれし父の背の破れシャツより見へゐし膏薬　福井県　永田弘子

ケガをしておぶってくれた君の背が大きく見える秋の校庭　山形県　池野愛梨

画面越しに我が子に会う日待ち焦がれこぼれる笑顔退院のとき　福井県　宮本香織

戦没の大叔父の年若きこと子や孫たちに繰り返す夏　千葉県　堀卓

コロナ禍に逝く母見舞いは制されて別れは全て事務的に済む　京都府　木下晴生

友の逝き灯りのひとつ減る馬島波止場に立ちて島影眺む

山口県　山村　進

いわし雲ふたりで眺める帰り道手が触れるまであと10センチ

山形県　菊池美玖

「食べられた」病の吾子の朝いちのメール確かめ食パンを焼く

大阪府　松井詔子

ひまわりを見るためぼうし持ち出して玄関あけて庭へかけ出す

長野県　石田そら

ぽっかりと空いた時間が虚しくて日照りの庭に水を撒きたり

茨城県　小牧悦二郎

就職の列車の友へ車窓から駅弁渡す十五の春に

佐賀県　浦田穂積

霜月の土間で繭炊き糸をひく鼓車の音だけやさしく響く

福井県　坂野靖子

式挙げず記念写真に姪の着る祖母手作りのウェディングドレス

北海道　藤林正則

灯の消えし馴染みの店のシャッターに再開告げる貼り紙眩し

神奈川県　久保田聡

温泉に二人の叔母と語らえば我の知らない母に出合えり

福井県　加藤文代

## 独楽吟部門 総評

審査員長 市村善郎

今回の橘曙覧賞には「楽しみは青から赤にかわってくおばあちゃんちのかきを見るとき」（吉本渚星）を推した。

短歌はわずか三十一文字だが、短編小説を読むような物語を表現することが出来る。今回の受賞作はそういう面を持っている。

まず作者が子どもであることは「おばあちゃんち」から想像する。「おばあちゃんち」がどこにあるかを思うのも面白い。通学路に沿っているのだろうか、少し廻り道をすれば見えるのだろうか、近いのでよく顔を見に寄るのだろうか。それに「柿の木」これは一本だろう。大きくてたくさん実がなる。もちろん甘柿だろう。葉の中にまぎれて見えなかった柿の実が、少し色づいて存在を主張しはじめると「楽しみは」の基が出来てくる。小学生の歌というなかに、見えてくる風景は多いし楽しいのである。

私たちは集まった作品を審査する役なのだが、数字的に点数をつけるものではない。一読して「小さな物語」が出来るかどうかを楽しむ。独楽吟は「楽しみは」と歌い出す作者の発見した「世界」また「思想」の中に、読者としての私が入れる世界があるかどうかを楽しんでいる。軽く詠んでいただければいい。また次回も「楽しみ」を見せて下さるとうれしい。

---

## 自由短歌部門 総評

審査員長 福島泰樹

毎年思うことだが、「令和独楽吟」応募作品の方が、短歌専門誌掲載の歌人の作品より感銘深いのはなぜだろう。

そう、応募作品には生活があり、人生が在るのだ。さらに言えば、時代があり歴史がある。そして人が背負わなければならない「生老病死」があり、真摯な「祈り」があり、「労働」があり、「戦争」の記憶がある。

〈鍬を振り荒れし吾が掌を包みつつ「緊い手だなー」と孫は呟く〉

〈農継ぐと言った孫から聞かされる土の匂いが好きなんだよと〉

〈金星は夜勤の我ら見守りて空淡くなり静かに宙へ〉〈蚊帳のうち母の嗚咽のやまざりき叔父の戦死の報せありし夜〉、「病」を詠んだ〈コロナ禍に逝く母見舞いは制されて別れは全て事務的に済む〉の作が現在を鋭く抉り、〈かじかんだ両手で雪をかき分けて万両の実の輝きにあう〉には、「生」の率直な感嘆がある。

そして、〈「またあした」とびらが開き赤色の夕陽に溶けて消えゆく背中〉に接し、日本は大丈夫だの感を深めた。

## 〈独楽吟部門〉旧名称 平成独楽吟部門

## 橘曙覧賞受賞作品（第17回～26回）

第26回（令和2年度）
たのしみは失敗しても父さんが頭ポンポンなぐさめるとき　広島県　光岡　碧

第25回（令和元年度）
たのしみは継ぐとは言わず真っ先に店のシャッター子が開けるとき　神奈川県　井上　靖

第24回（平成30年度）
楽しみは出来たぞ孫がようやくに杉三代の苗植えるとき　山形県　湯乃村紘一

第23回（平成29年度）
たのしみは異国に働く夫の膝帰ればおさなの椅子になるとき　福井県　丸岡里美

第22回（平成28年度）
たのしみは三代目の養子の雪つりに夫と似てきた姿見しとき　福井県　田中美代子

第21回（平成27年度）
たのしみは祖父のとなりで肩ならべ見よう見まねでろくろする時　福井県　山本　稜

第20回（平成26年度）
たのしみは庭に遊べる小鳥らに林檎の皮を厚く剝くとき　神奈川県　中嶋恭子

第19回（平成25年度）
たのしみはピカピカひかるかいだんをそうじおわって上から見るとき　福井県　堂島彩愛

第18回（平成24年度）
たのしみは日の射す庭に小豆干す老父母いるを里に見るとき　熊本県　志賀直子

第17回（平成23年度）
たのしみは洗濯物を六人の家族に分けてたたむひととき　茨城県　田口久子

---

## 〈自由短歌部門・テーマ短歌部門・一般短歌部門〉

## 橘曙覧賞受賞作品

第26回（令和2年度）
病床のわれにリンゴを食べさせるあかぎれの手の妻に触れてる　東京都　野村信廣

第25回（令和元年度）
亡母が切りたる最後の稲藁を大根の畦にそっとかけゆく　福井県　後藤由美子

第24回（平成30年度）［テーマ…あの日］
母の背であの日見上げた赤とんぼ今は背負った母と見ている　千葉県　小林　功

第23回（平成29年度）［テーマ…旅］
この道がバージンロード父は娘の精霊船に寄り添って行く　長崎県　牧野弘志

第22回（平成28年度）［テーマ…友］
十年前抱いた夢を持ち続け明日もお前と白球を追う　福井県　岩﨑大朔

第21回（平成27年度）［テーマ…家族］
車椅子に息子を乗せし老夫婦鴨の群れゐる岸辺押しゆく　千葉県　河野雅子

第20回（平成26年度）［テーマ…ふるさと］
ふるさとの駅をすぎれば車窓より子らの声なき学校の見ゆ　千葉県　河野成実

第19回（平成25年度）［テーマ…福井］
台風は過ぎて秋晴れコシヒカリをひとかぶひとかぶ手で起こしやる　福井県　北野よしえ

第18回（平成24年度）
汲みおきの水とり代える幸せを震災前は思い及ばず　千葉県　佐藤清子

第17回（平成23年度）
あるだけの飼料を撒き終え被曝地の養豚農夫去り難く泣く　富山県　村沢清人